

神栖市の飲用井戸 26 件の調査結果を公表 環境省



環境省は、平成 20 年 10 月 1～2 日に「茨城県神栖町における地下水汚染範囲のモニタリング及び飲用井戸水の安全確保について」に基づき、茨城県神栖市で飲用井戸 26 件の調査を行いました。その結果、環境省は、すべての井戸について、ジフェニルアルシン酸は不検出であったと発表しました。

7月末に実施した神栖市のモニタリング孔における地下水調査では、ABトラック外の北東地域に設置した M14、M15 のモニタリング孔から、微量のジフェニルアルシン酸 (DPAA) が検出されました。

なお、8 月末に実施した確認検査では両孔とも不検出でしたが、今回、両モニタリング孔から概ね 200～300 メートル圏内のすべての飲用井戸において調査が行われ、26 件すべてでジフェニルアルシン酸は不検出となりました。

さらにモニタリング孔の M14 及び M15 については、引き続き、定期モニタリングを行い、地下水汚染範囲の状況監視を行うとしています。

なお、5 件の井戸から 0.013～0.039mg/l の総ヒ素が検出されました。これについては、茨城県において井戸水の使用に係る必要な指導を引き続き行っていきます。

同市のモニタリング孔の地下水調査は、平成 16 年度から地下水汚染範囲の監視を目的に、年 4 回 (季節ごと) 定期的に実施しています。

当社では砒素をはじめ、有害金属の分析には実績があります。お気軽にお問い合わせください。

資料 2008 年 10 月 30 日付 EIC ネット

品質検査箇所 竹下尚長